

屋根 (1956)

IL TETTO
THE ROOF

メディア 映画

ジャンル ドラマ コメディ

製作国 イタリア／フランス

色彩 B&W

時間 110分

初公開日 1957/01/15

公開情報 イタリアフィルム＝NCC

【解説】

開巻のテンポはどこかハリウッド・コメディ風である。結婚式の順番も立て込んで慌ただしく教会を後にする花嫁はタクシーの中でドレスを脱ぎ、花婿はそれを貸衣裳に返す時間の念を押し両親に託し、バス停へ。漁村の花嫁の実家に挨拶に向かうのだが、彼女の父の反応はよろしくない。婿殿が新居をかまえる甲斐性なく、愛娘は義姉夫婦と舅姑との同居を余儀なくされるからだ。だが、戦後、住宅不足の続くローマでは、彼らのような若夫婦の稼ぎでまともな部屋に住むのは困難。しかも、夫ナターレはまだ義兄について壁職人の見習いで、三世帯同居は妻ルイザも覚悟の上だ。だが、家長である義兄の嫌味な言動と、実際、プライバシーの持ちようのない9人で2部屋の所帯に耐えかね、二人は家を飛び出した。大荷物を引いてあちこちさまようナターレ。妻は友人が住み込み家政婦をある屋敷に何とかして潜り込ませたが、自分は現場監督で夜露をしのぎ、通りがかりに見た、建てかけの仮設住宅に希望を見いだす。そこの主は屋根のないのを理由に、住居権を主張できず追い立てを喰っていたが、自分なら、朝、警官が巡回に来る前に一晩で家を建てることのできる。仲間の力を借りれば簡単だ。早速、借財をしても材料をかき集め、夜半、作業に取りかかるが、手伝いは自分同様未熟工で案外はかどらない。刻々と夜明けは近づき、ルイザは黙って義兄に頭を下げに行き、助けを乞う。そして召集された熟練の職人たちの手で家は完成に向かうが、結局、巡回までに屋根はふき終わらなかった。しかし警官は、同情を買うために仲間がルイザに抱かせた赤ん坊にほだされて、これを見逃すのだった。若夫婦のリストウツィとパロッタは素人だというが、とてもそうは信じられないほどの好演。一本調子で膨らみに欠ける作品だが、扱うテーマは切実で共感しつつ観ることができる佳作である。

【クレジット】

監督	ヴィットリオ・デ・シーカ	Vittorio De Sica	
製作	ヴィットリオ・デ・シーカ	Vittorio De Sica	
原案	チェザーレ・ザヴァッティーニ	Cesare Zavattini	
脚本	チェザーレ・ザヴァッティーニ	Cesare Zavattini	
撮影	カルロ・モンテュオリ	Carlo Montuori	
編集	エラルド・ダ・ローマ	Eraldo Da Roma	
音楽	アレッサンドロ・チコニーニ	Alessandro Cicognini	
出演	ガブリエラ・パロッティ	Gabriella Pallotti	ルイザ・ピロン
	ジョルジオ・リストウツィ	Giorgio Listuzzi	ナターレ・ピロン
	ガストーネ・レンツェリ	Gastone Renzelli	チェザーレ
	マリオ・ディ・ローロ	Maria Di Rollo	ジーナ
	ルチアーノ・ピゴッツィ	Luciano Pigozzi	
	ジュゼッペ・マルティニーニ	Giuseppe Martini	